

<講演テーマ>

「米商業ドローン業界における最近の動向」

<日時>

2021年7月28日（水曜）9:30～10:00

<概要>

21年4月21日、米国ではリモートIDおよび第三者上空飛行に関するルールが発効した。同規制緩和を受け、米商業ドローン業界では目視外飛行（BVLS）の環境整備と導入事例が増えている。同6月、連邦航空局（FAA）は、目視外飛行に関する諮問委員会を設立し、目視外飛行を可能にするパート107のあり方について検討を加速させている。日本でも2022年春と予想される。今回は目視外飛行を目前にした米国商業ドローン業界の動きを追ってみたい。

<キーポイント>

- リモートID（ネットワーク方式の展望を含む）
- 商業ドローンの耐空審査（機体認証）
- BVLOS対応するUTM（空域管理システム）
- ドローン向け通信サービス
- 商業ドローン・サプライチェーン問題

<講師：小池良次 米アエリアル・イノベーション CEO>

- 商業無人飛行機システムおよび情報通信システムを専門とするリサーチャーおよびコンサルタント。
- シリコンバレーに本社を置くアエリアル・イノベーション LLC社の最高経営責任者
- 国際大学グローコム・シニアフェロー
- 情報通信総合研究所上席リサーチャー
- 在米約30年、現在サンフランシスコ郊外在住
- 情報通信ネットワーク産業協会にて米国情報通信に関する研究会を主催
- 日経新聞電子版やウェブ・マガジン「ウィズダム」で連載を持つ。

